

JAVISIA

高視認性安全服普及へ

販売会社、着用者の理解が鍵

日本高視認性安全服研究所（JAVISIA）は、高視認性安全服の普及に向けて、今年には販売会社、18年に法人ユーザー、19年に一般ユーザーと段階的に理解を深めていく方針を決めた。日本保安用品協会、日本防護服協議会、日本ユニフォームセクターと発足した「高視認性安全服普及委員会」が中心となり、課題の共有や普及活動を行っている。19日に都内で開催したJAVISIA会員総会で報告した。



19日に会員総会

高視認性安全服は2015年に日本工業規格「JIS T 8127」が制定され、ユニフォーム業界では普及に期待が高まった。道路整備、航空

関連の企業で採用が増えつつある一方で課題も挙がっている。特に多いの

射材と蛍光生地が劣化してしまうというものだ。服部勝治JAVISIA所長は「JIS制定後の一年で問題が見えてきた。高視認性安全服の着用者が働く現場の環境は多様で、それぞれに適した服の選択、着用方法、管理方法を理解してもらうことが普及の鍵となる」と話す。

関係者の行動は早かった。16年に業界団体と普及委員会を発足、今春にガイドラインパンフレットを作成した。高視認性安全服の基礎知識と取り扱いについて3巻でコンパクトにまとめている。今後は一般道路や倉庫・工場など作業環境に適したクラスの安全服の推奨や各種展示会での普及活動、業界としての課題の共有と対策案の構築を進める。

おわびして訂正します

おわびして訂正します

おわびして訂正します

おわびして訂正します